



二葉幼稚園

園のたより

2023年



5月の聖句

しゅよ、おはなしてください。
しもべはきいております。 サムエル記上3章9節

5月のさんびか

ふしぎなかぜが こどもさんびか改訂版94

動き出す

新年度が始まり、1ヶ月が過ぎようとしています。昨年度、子ども達が植えた門花壇の花達やチューリップも、4月からぐんぐん大きくなり、誇らしげに咲いています。まるで子ども達の進級した気持ちを表しているかのようです。ウラジロもみの木や桜ブラシの木、花水木、びわ、柿等、木々の変化や虫達との出会い、自然の不思議さや美しさに目を見張る春です。ある日、弟を迎えに来た新1年生のくん。「うわ～綺麗な緑だね～今年美味しい柿がいっぱいできそうだね！」そうなんです！お気づきですか？新緑は新緑でも柿の葉、とても艶やかで毎日見てるだけでも心が和みます。

かと思えば、年長の？ちゃん。西玄閣靴箱上の絵を見て「この青い眼のお人形を描いた人、すごく上手だね！」と。今までずっと飾ってある作品。何度も前を通っていたけれど、？ちゃんはこの時初めてその絵と出会ったのですね。

いつもそこにあるもの、『ある』ことが当たり前すぎて慣れてしまいがちな私達。様々な発見に心躍らせる子ども達の姿から、毎日出会う人、物や場所、空気、水、命等、決して当たり前ではないあらゆるものの有り難さ、素晴らしさ、魅力・・・今一度無心になりその価値を改めて発見できる謙虚さ、柔軟さにあやかりたいと思います。

毎年、園庭の金柑に蝶が卵を産みに来ます。卵が育っていく様子を子ども達と祈りをもって観察し、蝶になったら空へ返します。子ども達はふたばっことして二葉の園生活の中で様々な人や物、言葉や行動、感情に出会います。集団生活なので家庭では普段食べない、取り入れないことにも沢山遭遇し、エリック・カールの『はらぺこあおむし』のように、子ども達は手当たり次第に吸収していくでしょう。時には、食べ慣れないものを沢山取り入れ、消化不良を起こす時もあるかも知れません。ですが、子ども達が授かっている賜、生命は人知を遥かに超え、神さまの大きな愛と恵みに満たされていることを思います。色んな経験、葛藤を繰り返し、紆余曲折を経ていつか自分らしさに辿り着く。嬉しいことも悲しいことも当然あります。時には、子ども達がさなぎみたいの外からは何も変化がないように見え、寄り添うご家族や私達保育者も不安や心配に襲われることもあるでしょう。でも！そんな時こそ深呼吸。子ども達の自ら育つ力を信じ、希望を抱き続け、祈りつつ見守る者でありたいです。ご家族の愛は届き、きっと見えないところで少しずつ変化していて、あらゆるものが熟成し、やがて時が満ちると自分で皮を破り、見事な蝶になってその人らしい彩りの羽を広げ、大空高く、悠々と飛び立っていくことでしょう。そんな育ち合いの見通しを持って、お互いに頑張りすぎず、肩の力を抜いて、長い目で一緒にふたばっこライフを楽しんで参りましょう！5月は疲れが出やすい時、子ども達だけでなく大人も「ヨシヨシ」と労り合って、青虫のようにモソモソとゆっくり動き出す春、一步一步を慈しんで。

立候補で決まった新ふたば会幹事の方々の思いを大切に皆様の愛と笑顔を！【園長】